

コ ー ス	口腔衛生学・口腔衛生学実習 (Oral Health Lecture & Lab class)		
学年・期・単位	第3学年・前期・後期・3単位	科目担当責任者	荒川 浩久 (健康科学講座 口腔保健学・教授)
オフィスアワー	講義・実習日放課後～18:00(第2研究棟4階荒川教室および授業担当者の部屋)	メールアドレス	arakawah@kdcnet.ac.jp
一般目標 (GIO)	健康科学の視点から疾病予防や健康増進を図るための科学の基礎と技術を理解し、臨床予防歯科と地域歯科保健活動の両者への対応を習得する。実習では一般衛生学と口腔衛生学の基礎的背景を具有するために、与えられた項目について自分の力で考えながら、衛生的、疫学的な考え方を理解し、臨床予防歯科に必要な技能を習得する。		

講義ユニット	一般目標 (GIO)
1. 口腔保健学序説	口腔保健学の目的を理解し、現代の健康のとらえ方を習得する。
2. 生涯歯科保健	わが国の保健政策の変遷について理解し、国内外の歯科保健の現状と目標を習得する。
3. 口腔保健と行動科学	健康教育の考え方とその実際を習得する。
4. 歯とその環境	硬組織の化学的・形態学的特徴と表面に沈着する不潔因子について理解し、形成期および萌出後における歯と食品の関わりおよび唾液の口腔衛生的意義を習得する。
5. ブラークコントロール	ブラークコントロールの意義と技術を理解し、プロフェッショナルケアとホームケアにおける適用ならび患者へのアドバイスを習得する。
6. 齲蝕の原因とその予防	現代の齲蝕原因論を理解し、それに応じた予防体系を習得する。
7. 適切なフッ化物応用と歯科保健	フッ化物応用の科学と基礎を理解し、臨床予防歯科ならびに地域歯科保健活動での応用を習得する。
8. 歯周疾患の原因とその予防	歯周疾患の病因とリスクファクターを理解し、予防とコントロールの方法を習得する。
9. その他の歯科疾患の原因と予防	口腔の二大疾患以外に有病率の高い疾患の特徴を理解し、その予防とコントロールの方法を習得する。
10. 口腔領域における健康管理	口腔健康管理の意義と概念を理解し、現行の公衆衛生的口腔健康管理制度を習得する。
11. 地域歯科保健と衛生行政	現在の地域保健のあり方を理解し、地域歯科保健活動の展開とそのサービス拠点を習得する。
12. 対象別の歯科保健対策	ライフステージに応じた地域歯科保健活動の意義と制度を理解し、健康診査と事後措置の実際を習得する。

教科書〈講義〉		
書名	著者名等	発行所
A スタンダード口腔保健学 ―健康科学として考える―	荒川浩久、神原正樹、安井利一編	学建書院
B ブラークコントロールのためのホームケア指導	荒川浩久監修	クインテッセンス

評価法 (EV)
講義「客観式本試験 (70%)・学習ポートフォリオ (10%)・講義ノート (10%)・出席状況 (10%)と受講態度 (減点)」と実習「実習レポート帳 (20%)・実習試験 (70%)・出席状況 (10%)と受講態度など (減点)」による総合評価。講義成績を60%、実習成績を40%で総合する。

授業計画 (講義)						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
1	4/7	口腔保健学序説	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念を説明できる。</li> <li>2. QOL を説明できる。</li> <li>3. WHO による健康の定義を述べることができる。</li> <li>4. 機能障害、能力障害、社会的不利に関連づけることができる。</li> <li>5. 健康指標と健康水準を説明できる。</li> <li>6. 健康リテラシーの意義を説明できる。</li> <li>7. 疾病の自然史を説明できる。</li> <li>8. 疾病を病因論から分類できる。</li> <li>9. 疾病予防の3相5段階における対応を説明できる。</li> <li>10. 予防実践における3つの対応 (場面) を説明できる。</li> <li>11. 口腔と全身の健康との関連を説明できる。</li> <li>12. プライマリヘルスケアにおける5つの条件を列挙できる。</li> <li>13. プライマリヘルスケアの4原則を説明できる。</li> <li>14. アルマアタ宣言を説明できる。</li> <li>15. ヘルスプロモーションの定義を説明できる。</li> <li>16. オタワ憲章成立の経緯と意義を述べることができる。</li> </ol>	A P1~18。 形成的自己評価のために予習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	荒川浩久	C-1-①~③ C-3-1)-①~③  必-2-A-a, b 必-3-A-a, b, c 総-( I )-1-A, D, E 総-( I )-4-B, E
2	4/14	生涯歯科保健	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯歯科保健のアウトラインを説明できる。</li> <li>2. 地域保健法ならびに母子保健法改正による地域保健の見直しを説明できる。</li> <li>3. 都道府県と市町村の歯科保健事業の役割分担を説明できる。</li> <li>4. 8020運動の意味を説明できる。</li> <li>5. 健康日本21について説明できる。</li> <li>6. 健康日本21における4つの歯科目標を列挙し、その内容を説明できる。</li> <li>7. 健康増進法の理念を説明できる。</li> <li>8. 国際比較による日本の齲蝕および歯周疾患の状態を説明できる。</li> <li>9. WHO による西暦2020年の口腔保健目標を列挙できる。</li> <li>10. 各種齲蝕予防手段の証拠の質を述べることができる。</li> <li>11. 口腔保健の国際協力の現状を説明できる。</li> <li>12. WHO の機構について説明できる。</li> </ol>	A P19~34。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	荒川浩久	C-2-2)-①  必-3-A-d 必-3-B-b 総-( I )-6-A, B 総-( II )-1B
3	4/21	口腔保健と行動科学	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康教育とヘルスプロモーションにおけるプリシード・プロシードモデルの概要を述べることができる。</li> <li>2.モチベーションの成立要件を説明できる。</li> <li>3. 学習支援型における健康教育について説明できる。</li> <li>4. ライフスキル教育における健康リテラシーの意義を説明できる。</li> <li>5. 診療室における健康教育の注意点を述べることができる。</li> <li>6. 医療面接の重要性について説明できる。</li> <li>7. インフォームドコンセントの成立について説明できる。</li> </ol>	A P35~46。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	木本一成	A-4-① B-2-2)-① C-3-1)-③  必-3-A-g 総-( II )-1-A, C 総-( II )-1-H
4	4/28	歯とその環境	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エナメル質、象牙質、セメント質の組成、物理・化学的特徴の違いを述べることができる。</li> <li>2. エナメル質の萌出後の成熟現象について説明できる。</li> <li>3. エナメル質の脱灰と再石灰化現象の概要について説明できる。</li> <li>4. 歯の沈着物の種類を列挙し、それぞれの成因を説明できる。</li> <li>5. 唾液の口腔衛生的意義を述べることができる。</li> </ol>	A P79~86、98~102。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	木本一成	F-2-2)-④ F-3-2)-①⑤  総-( II )-1-F
5	5/12		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブラークの構成を説明できる。</li> <li>2. ブラークの成熟とそれとともなう細菌叢の変化を説明できる。</li> <li>3. 歯の形成に与える必要栄養素を列挙し、それぞれの作用を説明できる。</li> <li>4. Hopewood House Study から得られた知見を説明できる。</li> <li>5. Vipeholm Study から得られた知見を説明できる。</li> <li>6. 食品の潜在脱灰能を説明できる。</li> <li>7. 食品の齲蝕抑制因子を列挙し、その作用を説明できる。</li> <li>8. 代用糖を分類し、それぞれの特徴を説明できる。</li> </ol>	A P86~98。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	木本一成	F-1-6)-(2)-④ F-3-2)-⑤  各 I -1-A
6	5/19	ブラークコントロール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブラークコントロールの意義を説明できる。</li> <li>2. ブラークコントロールの連続概念を説明できる。</li> <li>3. 齲蝕予防とブラークコントロールの関連を説明できる。</li> <li>4. 歯周病予防とブラークコントロールの関連を説明できる。</li> <li>5. 口臭予防とブラークコントロールの関連を説明できる。</li> <li>6. 清掃性により歯面を分類できる。</li> <li>7. ステファンのカーブを説明できる。</li> <li>8. ネフのカーブを説明できる。</li> <li>9. ブラークコントロールの種類を説明できる。</li> <li>10. 手用歯ブラシの構成について説明できる。</li> <li>11. 植毛部の形態を分類し、特徴を述べることができる。</li> <li>12. 植毛状態を分類し、特徴を述べることができる。</li> <li>13. 植毛の毛先の形態を分類し、特徴を述べることができる。</li> <li>14. 植毛の材質と硬さを分類し、特徴を述べることができる。</li> <li>15. 電動歯ブラシを分類し、利用の仕方を説明できる。</li> </ol>	A P103~107、 B P8~24、34~46。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	川村和章	C-3-2)-① F-1-6)-(2)-②③  必-3-J-6 各 I -6-A
7	5/26		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブラッシング法を分類し、特徴を述べることができる。</li> <li>2. 歯ブラシの管理の方法を説明できる。</li> <li>3. 年齢に応じたブラッシング法を説明できる。</li> <li>4. 歯ブラシ把持の方法を分類し、特徴を述べることができる。</li> <li>5. 特殊な歯ブラシを分類し、利用の仕方を説明できる。</li> <li>6. デンタルフロスを分類し、それぞれの特徴を説明できる。</li> <li>7. 各種デンタルフロスによる歯間部清掃法およびその他の利用について説明できる。</li> <li>8. デンタルフロスのワックス処理の有無による違いを説明できる。</li> <li>9. 歯間ブラシを分類し、それぞれの特徴を説明できる。</li> </ol>	A P107~109、B P73~93。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	川村和章	C-3-2)-① F-1-6)-(2)-③

授業計画 (講義)						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
7		ブラークコントロール	10. 歯間ブラシによる歯間部清掃法およびその他の利用について説明できる。 11. デンタルフロスと歯間ブラシの誤用による為害性を説明できる。 12. シングルタフトブラシの使用意義を説明し、使用法を説明できる。 13. 歯間刺激子の使用意義を説明し、使用法を述べることができる。 14. 水流圧口腔洗浄器の使用意義を説明し、使用法を説明できる。 15. 舌苔清掃用具の使用意義を説明し、使用法を説明できる。			必-3-J-a 各 I -6-B, C
8	6/2	ブラークコントロール	1. ブラークコントロールにおける化学的清掃法の意義を説明できる。 2. 歯磨剤と洗口剤の使用意義を説明し、その違いを述べることができる。 3. 歯磨剤の配合成分を分類し、代表的な成分名を列挙できる。 4. 歯磨剤を剤型および配合成分から分類できる。 5. 歯磨剤配合成分の機能を説明できる。 6. 化粧品歯磨剤の効能効果を列挙できる。 7. 歯磨剤に用いられる薬用成分を列挙しその効果を述べることができる。 8. 洗口剤の配合成分を分類し、代表的な成分名を列挙できる。 9. 洗口剤を配合成分から分類できる。 10. 洗口剤の基本成分および薬用成分の機能を説明できる。	A P110~113, B P115~124。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	荒川浩久	C-3-2)-①② F-1-6)-(2)-③  必-3-J-a 各 I -6-B, C
9	6/9	ブラークコントロール	1. デンチャーブラークの有害性を説明できる。 2. 義歯の物理的および化学的ブラークコントロール法を説明できる。 3. 義歯清掃剤の必要性を説明できる。 4. 義歯洗浄剤に用いられている洗浄成分の特徴を説明できる。 5. 要介護者のための口腔ケア用具を列挙し、それぞれの使用法を説明できる。 6. 要介護者の自立支援のための口腔ケアの意義を説明できる。 7. 要介護者への口腔清拭を説明できる。 8. インプラント装着者のためのブラークコントロール法を説明できる。 9. プロフェッショナルケアにおける歯口清掃を説明できる。 10. ライフステージごとに変化する口腔疾患傾向とリスクファクターを説明できる。 11. ライフステージごとに強化すべき口腔のホームケアとプロケアを説明できる。 12. 歯磨きの発達段階を説明できる。 13. ライフステージごとのセルフケアによる歯磨き法を説明できる。 14. 歯垢染色剤を分類し、それぞれの特徴を述べることができる。 15. 歯口清掃行動を説明できる。	A P113~118, B P25~31, 47~72, 94~114。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	荒川浩久	C-3-2)-①③ F-1-6)-(2)-③  必-3-J-c 各 I -6-B, C
10	6/16	齶蝕の原因とその予防	1. 現代の齶蝕発生の3つの輪と4つの輪について説明できる。 2. 齶蝕発生の宿主要因の歯について説明できる。 3. 齶蝕発生の宿主要因の唾液について説明できる。 4. 齶蝕の発生部位別の齶蝕原生微生物を列挙できる。 5. 齶蝕原生微生物の齶蝕誘発性を説明できる。 6. 齶蝕発生における歯垢の役割を説明できる。 7. 齶蝕発生における歯垢中フッ化物の役割を説明できる。 8. 齶蝕発生における食餌性基質の関わりを説明できる。 9. 齶蝕発生における時間的要因の関わりを説明できる。	A P119~130。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	宋 文群	C-3-2)-①  各 I -1-A ~ C
11	6/23	齶蝕の原因とその予防	1. 齶蝕予防レベルの3相5段階を説明できる。 2. 齶蝕発生のリスク要因を列挙できる。 3. 個人の齶蝕リスク判定の基準を説明できる。 4. 齶蝕活動性試験の意義を述べ、分類できる。 5. Snyder Test, Swab Test, Fosdick Test, Dreizen Test, Enamel Biopsy の原理を説明できる。 6. 齶蝕発生要因に対する予防手段を列挙できる。	A P130~144。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	宋 文群	C-3-1)-① F-1-6)-(1)-② F-1-6)-(2)-①  各 I -1-A ~ C, G
12	6/30	適切なフッ化物応用と歯科保健	1. フッ化物の健康への有益性を説明できる。 2. フッ化物の栄養的意義を説明できる。 3. フッ化物の由来を説明できる。 4. 空気、降水、土壌におけるフッ化物の存在を説明できる。 5. 河川、湖、地下水、海におけるフッ化物の存在を説明できる。 6. 飲食品中におけるフッ化物の存在を説明できる。 7. 日本人の1日のフッ化物摂取量を説明できる。 8. 比較的多くのフッ化物を含む飲食品を列挙できる。 9. フッ化物の定量法を列挙できる。	A P145~148。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	荒川浩久	C-3-2)-②  各 I -1-F
13	7/7	適切なフッ化物応用と歯科保健	1. フッ化物濃度 (ppm, mg/L, mg/kg) とフッ化物量の関連を説明できる。 2. 摂取されたフッ化物の主な代謝経路を説明できる。 3. フッ化物の摂取源を説明できる。 4. フッ化物の Bioavailability を説明し、それに影響する因子を列挙できる。 5. 成人と子供のフッ化物バランスの違いを説明できる。 6. 胎児へのフッ化物の移行を説明できる。 7. 骨におけるフッ化物の出納を説明できる。	A P148~151。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	荒川浩久	C-3-2)-②  各 I -1-F
14	7/14	適切なフッ化物応用と歯科保健	1. ヒトの主要な硬組織中フッ化物濃度を述べることができる。 2. ヒトの軟組織中のフッ化物の蓄積について説明できる。 3. ヒトの主要な体液中フッ化物濃度を述べることができる。 4. フッ化物による急性毒性発現量を述べることができる。 5. フッ化物による急性毒性の重症度による症状の変化を説明できる。 6. フッ化物による急性毒性の発現のメカニズムを説明できる。 7. フッ化物による急性毒性時の対処法を説明できる。 8. フッ化物応用の理念を説明できる。 9. フッ化物応用を推奨する機関を列挙できる。	A P151~154。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	荒川浩久	C-3-2)-②  必-3-H-c 各 I -1-F

授業計画 (講義)						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
15	7/21	適切なフッ化物応用と歯科保健	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フッ化物の慢性的な骨への影響を説明できる。</li> <li>2. フッ化物の慢性的な歯への影響を説明できる。</li> <li>3. 歯のフッ素症と骨フッ素症の発生要因を説明できる。</li> <li>4. 歯のフッ素症の症度を説明できる。</li> <li>5. 外観上問題にならない歯のフッ素症について説明できる。</li> <li>6. 斑状歯における歯のフッ素症を説明できる。</li> <li>7. 歯のフッ素症の疫学的特徴を説明できる。</li> <li>8. フッ化物応用が普及するまでの歴史の概要を説明できる。</li> </ol>	A P154～158。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	宋 文群	C-3-2)-②  各 I -1-F
16	9/1		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フッ化物局所応用を分類し、それぞれのフッ化物濃度と効果を述べることができる。</li> <li>2. 薬事法におけるフッ化物配合歯磨剤の位置づけと規制を説明できる。</li> <li>3. フッ化物配合歯磨剤に用いるフッ化物を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。</li> <li>4. フッ化物配合歯磨剤のより効果的な使用方法を説明できる。</li> <li>5. フッ化物歯面塗布に用いるフッ化物を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。</li> <li>6. フッ化物塗布法を分類し、それぞれの特徴を説明できる。</li> <li>7. 溶液による一般法の塗布術式を説明できる。</li> <li>8. ゲルによる歯ブラシ塗布法、一般法、トレー法の塗布術式を説明できる。</li> <li>9. 毎日法と週1回法によるフッ化物洗口法の特徴と適用を説明できる。</li> <li>10. フッ化物洗口法の術式を説明できる。</li> <li>11. ライフサイクルにおけるフッ化物局所応用の適用を説明できる。</li> <li>12. その他のフッ化物局所応用 (バーニッシュ、徐放材、徐放装置) を説明できる。</li> </ol>	A P164～166。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	荒川浩久	C-3-2)-② F-1-6)-(1)-①  必-3-H-b 各 I -1-F
17	9/8		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フッ化物全身応用を分類し、それぞれのフッ化物濃度と効果を述べることができる。</li> <li>2. 水道水フッ化物添加の意義を説明できる。</li> <li>3. 水道水フッ化物添加の至適フッ化物濃度の求め方の根拠を説明できる。</li> <li>4. 水道水フッ化物添加の天然地域について説明できる。</li> <li>5. 学校水道水フッ化物添加について説明できる。</li> <li>6. 全身的フッ化物応用を組合わせてはならない理由を説明できる。</li> <li>7. フッ化物補給剤ならびにその適正投与量を説明できる。</li> <li>8. フッ化物添加食塩の意義を説明できる。</li> <li>9. フッ化物添加ミルクの意義を説明できる。</li> </ol>	A P161～164。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	木本一成	C-3-2)-②  必-3-H-a 各 I -1-F
18	9/15		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エナメル質の溶解性に対する影響を説明できる。</li> <li>2. エナメル質の結晶構造に対する影響を説明できる。</li> <li>3. エナメル質の再石灰化に対する影響を説明できる。</li> <li>4. ブラーク中のフッ化物の影響を説明できる。</li> <li>5. 各フッ化物応用法の主要な齲蝕予防メカニズムを説明できる。</li> </ol>	A P158～161。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	木本一成	C-3-2)-②  各 I -1-F
19	9/22	予防 歯周疾患の原因とその	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯肉炎と歯周炎 (侵襲性、慢性) の特徴を説明できる。</li> <li>2. 歯肉炎と歯周炎 (侵襲性、慢性) の主要な原因菌を列挙できる。</li> <li>3. 歯肉炎と歯周炎の発症と進行に対するブラークの影響を述べることができる。</li> <li>4. 歯周炎の原因を列挙できる。</li> <li>5. 喫煙および糖尿病と歯周炎の関係を説明できる。</li> <li>6. 歯周疾患予防の3相5段階を説明できる。</li> <li>7. 歯周疾患予防におけるブラークコントロールの意義を説明できる。</li> </ol>	A P167～183。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	宋 文群	C-3-2)-① F-1-6)-(1)-③ F-3-2)-④  各 I -2-A ~ F
20	9/29	口腔領域における健康管理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自律的および他律的健康管理の違いを説明できる。</li> <li>2. 法律にもとづく健康管理制度を説明できる。</li> <li>3. 歯科集団検診の意義と目的を説明できる。</li> <li>4. 歯科検診の分類における集団検診の位置づけを説明できる。</li> <li>5. 集団検診実施の流れを説明できる。</li> <li>6. 歯科集団検診を規定した法律とそれに関する検診名を列挙し、概略を説明できる。</li> </ol>	A P205～214。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	川村和章	C-3-2)-④  総-(II)-10-G, I
21	10/6	政 地域歯科保健と衛生行政	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現行の地域保健のあり方と市町村の役割を説明できる。</li> <li>2. コミュニティオーガナイゼーションを説明できる。</li> <li>3. 地域保健法の概略を説明できる。</li> <li>4. 地域保健活動の展開順序を説明できる。</li> <li>5. 市町村保健センターの概要を説明できる。</li> <li>6. 保健所を分類し、概要を説明できる。</li> <li>7. 保健所の事業を説明できる。</li> </ol>	A P215～225。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	荒川浩久	C-3-2)-④  必-3-B-a 総-(I)-3-A 総-(I)-4-A, C, D

授業計画 (講義)						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
22	10/13	対象別の歯科保健対策	1. 母子歯科保健の意義を説明できる。 2. 母子保健法による母子保健関連用語の定義を述べることができる。 3. わが国の少子化対策 (新エンゼルプラン、健やか親子21) の概要を説明できる。 4. 母子保健活動の組織を説明できる。 5. 母子健康手帳について説明できる。 6. 養育医療と育成医療の違いを説明できる。 7. 妊産婦の口腔保健上のリスクと対策を説明できる。	A P227~234。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	木本一成	C-3-2)-④  必-3-C-a 総-(II)-2-A, B, E, F, I
23	10/20		1. 1歳6か月児歯科健康診査の意義と制度について説明できる。 2. 1歳6か月児歯科健康診査の問診と口腔診査の方法を説明できる。 3. 1歳6か月児歯科健康診査の齲蝕罹患型と保健指導について説明できる。 4. 3歳児歯科健康診査の意義と制度について説明できる。 5. 3歳児歯科健康診査の問診と口腔診査の方法を説明できる。 6. 3歳児歯科健康診査の齲蝕罹患型と保健指導について説明できる。	A P234~239。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	宋 文群	C-3-2)-④  必-3-C-a 総-(II)-2-C, G, H
24	10/27		1. 学校歯科保健の重要性を説明できる。 2. 学校の種類を列挙できる。 3. 学校保健の3領域について概略を説明できる。 4. 保健教育の内容を説明できる。 5. 学校保健委員会の構成員を列挙できる。 6. 学校保健に関係する職員を列挙し、その役割を説明できる。 7. 学校三師の役割と配置義務のある学校を述べることができる。	A P240~248。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	荒川浩久	C-3-2)-④  必-3-D-a 総-(II)-3-A~D 総-(II)-4-C-a, b
25	11/10		1. 学校歯科健康診断の種類をあげ、実施時期などの規定を説明できる。 2. 歯・口腔の学校健康診断の方法を説明できる。 3. CO および GO の意義を説明できる。 4. 学校歯科健康診断後の事後措置を説明できる。	A P249~255。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	川村和章	C-3-2)-④  総-(II)-3-E, F
26	11/17		1. 産業歯科保健の重要性を説明できる。 2. 産業衛生に関係する法律を列挙し、概略を説明できる。 3. 産業保健の事業所内の管理体制を説明できる。 4. 産業医の選任要件と役割を説明できる。 5. 労働衛生コンサルタントの資格要件と役割を説明できる。 6. 産業保健に関する3管理の概要を説明できる。	A P256~262。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	荒川浩久	C-3-2)-④  総-(II)-4-A, B, C
27	11/24		1. 労働安全衛生法に基づく健康診断を分類して列挙できる。 2. 労働安全衛生法に基づく歯科医師による健康診断の規定を説明できる。 3. 健康測定を基本とした職種における健康保持増進対策 (THP) を説明できる。 4. 口腔に症状を現す職業性疾患の原因物質と主要症状を説明できる。 5. 歯の酸蝕症の成因・症状・予防対策を説明できる。	A P262~270。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	荒川浩久	C-3-2)-④  必-3-E-a 総-(II)-4-D, E, F, G 各 I -5-A, B
28	12/1		1. 加齢による口腔の変化と、それに伴う機能低下を説明できる。 2. 高齢者医療法に基づく特定健康診査、特定保健指導を列挙し、歯科との関わりを説明できる。 3. 健康増進法に基づく歯周疾患検診の概要を説明できる。 4. 8020運動の意義を説明できる。	A P270~278。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	木本一成	C-2-2)-⑤ C-3-2)-④ F4-3)-①~③  必-3-B-c 必-3-F-a 必-3-G-a, b, c 総-(II)-5-A, C, D 総-(II)-6-A, B
29	12/8		1. 要介護高齢者の口腔ケアニーズと実践による効果を説明できる。 2. 介護保険制度を説明できる。 3. 介護認定までのプロセスを説明できる。 4. 地域支援事業として口腔機能の向上を説明できる。 5. 障害者の概念と歯科保健の重要性を述べることができる。	A P278~292。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	木本一成	C-2-2)-③⑥ C-3-2)-④ F4-3)-⑤⑥  必-3-G-a, b, c 必-3-J-d 総-(I)-3-D, H 総-(II)-6-C~G 総-(II)-8-A~D
30	12/15	その他の歯科疾患の原因と予防	1. 不正咬合の原因を列挙できる。 2. 不正咬合の予防を説明できる。 3. 口臭を分類できる。 4. 口臭の原因物質を説明できる。 5. 口臭の診査法を説明できる。 6. 口臭の予防について説明できる。 7. 顎関節症の原因と特徴を列挙し、予防の原則を説明できる。 8. 口腔ガンの原因を列挙し、予防の原則を説明できる。 9. 着色歯の原因を列挙し、予防の原則を説明できる。 10. 智歯周囲炎の原因と予防を説明できる。 11. 口内炎の原因と予防を説明できる。 12. 口腔外傷の原因と予防を説明できる。 13. Tooth Wear の原因と分類を説明できる。	A P185~203。 形成的自己評価のために予習部門と復習部門の小テストを行う。 板書したものを HP 掲載利用電子ノートへ記録させる。	木本一成	C-3-2)-①  総-(II)-10-L 各 I -3-A~D 各 I -4-A~C 各 I -5-E, G

実習ユニット	一般目標 (GIO)
1. 水環境と健康	ヒトの健康維持に欠くことのできない飲料水と環境汚染に関連する下水の意義とヒトへの影響を理解し、水質検査を実施して結果の良否を判断する能力を習得する。
2. 温熱環境と健康	われわれをとりまく温熱環境とヒトへの影響と意義を理解し、環境測定を行い、結果の良否を判断する能力を習得する。
3. 大気環境と健康	われわれをとりまく空気環境のヒトへの影響と意義を理解し、環境測定を行い、結果の良否を判断する能力を習得する。
4. 日光・採光・照明と健康	ヒトにとっての日光の意義を理解し、生活や活動において採光、照明を適切に保つことができる能力を習得する。
5. 騒音と健康	騒音のヒトへの影響を理解し、環境測定を行い、結果の良否を判断する能力を習得する。
6. 食生活と栄養	個人の栄養状態と日本人の栄養の現状と問題点を評価する能力を習得する。
7. 人間の活動と疲労	疲労回復と栄養摂取の意義を理解し、疲労についての対策を立てる能力を習得する。
8. 調査	地域歯科保健活動を進める際の調査法について理解し、各種の口腔診査法と試験法を実行できる能力を習得する。
9. 集計・診断・事後措置計画	個人と地域の歯科健康管理の考え方を理解し、調査結果を集計・指標化するとともに、個人と地域の特徴を把握し、事後措置計画を立案する能力を習得する。
10. 事後措置	ライフステージに応じた個人と地域の3つのプロフェッショナルケア、ホームケア、コミュニティケアについて理解し、適切な口腔清掃法、齲蝕と歯周疾患の予防法を実施できる能力を習得する。
11. 評価	個人と地域の歯科健康管理の評価の意義を理解し、統計的に評価できる能力を習得する。
12. 成人・高齢者・要介護者の歯科保健	成人、老人、要介護者の歯科保健の現状と問題点を理解し、適切な管理ができる能力を習得する。
13. PBL	口腔衛生学の関連課題について、グループ討議を通して学習し、その成果を習得する。
14. 試験評価	実習におけるすべてのユニットの内容を把握する。

教科書〈実習〉		
書名	著者名等	発行所
A スタンダード口腔保健学 ―健康科学として考える―	荒川浩久、神原正樹、安井利一 編	学建書院
B プラークコントロールのためのホームケア指導	荒川浩久 監修	クインテッセンス
C スタンダード衛生・公衆衛生 (第11版)	末高武彦 編	学建書院
D 生活と健康 ―測定と評価法―	荒川浩久、宮澤忠蔵、安井利一 編	学建書院
E 口腔保健実践ガイドブック (第2版)	荒川浩久、宮澤忠蔵 編	学建書院
F 実習レポート帳	神奈川歯科大学口腔保健学分野作成	

授業計画〈実習〉						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
1	9/1	P B L	1. PBLの手法を説明できる。 2. PBLの長所を説明できる。 3. 学習に必要なリソースの検索方法を説明できる。	グループ学習の計画立案と実行を支援する。	口腔保健学分野教室員全員、山本龍生、阿部 智	B-1-2)-①~③
						なし
2	9/1		1. PBLのステップ1~5を説明できる。 2. シナリオから問題点(不明部分)を抽出できる。 3. 問題点から学習項目を明らかにできる。	//	口腔保健学分野教室員全員、山本龍生、阿部 智	B-1-2)-①~③
						なし
3	9/8		1. 学習した内容をまとめることができる。 2. 各自が学習成果を発表することができる。 3. グループ内で討議することができる。	学習プロダクトと発表原稿の作成方法について支援する。学習プロダクト発表の方法について支援する。	口腔保健学分野教室員全員、山本龍生、阿部 智	B-1-2)-②③
						なし
4	9/8		1. グループ内で学習サマリーをまとめることができる。 2. 学習サマリーを発表用の媒体に工夫できる。 3. 発表用の媒体を作成することができる。	学習プロダクトと発表原稿の作成方法について支援する。学習プロダクト発表の方法について支援する。	口腔保健学分野教室員全員、山本龍生、阿部 智	B-1-2)-②③
						なし
5	9/15 9/29 10/6 10/13	水環境と健康	1. 簡易試験にて水質が検査できる。 2. 水道水の水質検査を分類し、その意義を説明できる。 3. 水道法の水質基準値の概要を説明できる。 4. 検水が飲用に適切かどうかを判断し、改善策を説明できる。	C P82~88、D P19~35、F P5~8の主要部分を解説する。 簡易水質検査と結果の考察を解説する。4班に分かれてローテーションで実習する。	口腔保健学分野教室員全員	C-2-3)-①
						総(Ⅱ)-13-G
6	9/15 9/29 10/6 10/13		1. 下水処理の方法を説明できる。 2. 水質汚濁の指標を分類し、その意義を説明できる。	C P94~95、D P36~40、F P5~8の主要部分を解説する。 下水処理の方法を解説する。4班に分かれてローテーションで実習する。	口腔保健学分野教室員全員	C-2-3)-①
						総(Ⅱ)-13-G
7	9/15 9/29 10/6 10/13	温熱環境と健康	1. 各測定項目に適した器具を選択し、気温、気湿が測定できる。 2. 最高最低温度計が測定でき、その原理を説明できる。 3. アスマン通風乾湿計の優れた点を説明できる。 4. 室内微気流の測定ができ、その原理を説明できる。 5. 温熱4要因とそれらを総合した温熱指数を具体的に説明できる。 6. 感覚温度図表を説明できる。	C P74~78、D P1~12、F P9~16の主要部分を解説する。 大気環境の一部の項目を測定する。測定結果から改善点の考察を解説する。4班に分かれて実習する。	口腔保健学分野教室員全員	C-2-3)-①
						総(Ⅱ)-13-G
8	9/15 9/29 10/6 10/13	大気環境と健康	1. ガス検知器による二酸化炭素、一酸化炭素の濃度測定と粉じん計による粉じん濃度が測定できる。 2. 測定結果から室内空気の大気環境、空気環境について評価できる。 3. 正常な空気の組成と呼吸による変化を説明できる。 4. 異常な空気環境の人間への影響を説明できる。	C P79~82、P91~93、D P13~18、F P9~16の主要部分を解説する。換気量と換気回数算出方法を解説する。測定結果から改善点の考察を解説する。 4班に分かれて実習する。	口腔保健学分野教室員全員	C-2-3)-①②
						総(Ⅱ)-13-G,J

授業計画〈実習〉						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
9	9/15 9/29 10/6 10/13	日光・採光・照明と健康	1. 紫外線強度計による紫外線が測定できる。 2. 紫外線、赤外線の影響を説明できる。 3. デジタル照度計による室内照度が測定できる。 4. 平均照度、均斉度、昼光率を説明できる。 5. 昼光率と均斉度の意義を理解し、その結果を説明できる。 6. 実習室内の環境を評価し、改善策を具体的に説明できる。	C P91~92、D P41~49、 F P17~20の主要部分を解説する。紫外線、採光と照度の測定方法を解説する。測定結果から改善策の考察を解説する。4班に分かれて実習する。	口腔保健学分野教室員全員	C-2-3)-①
						総(Ⅱ)-13-H,J
10	9/15 9/29 10/6 10/13	騒音と健康	1. 騒音の定義を説明できる。 2. 騒音のヒトへの影響を説明できる。 3. 普通騒音計を用いて変動騒音が測定できる。 4. 測定値から累積度数曲線をし、騒音レベルを説明できる。 5. 実習結果について問題点、改善策などを説明できる。 6. 日本の主要な騒音の種類と現状を説明できる。	C P90~91、D P50~59、 F P21、22の主要部分を解説する。騒音レベルの測定方法を解説する。測定結果から改善策の考察を解説する。4班に分かれて実習する。	口腔保健学分野教室員全員	C-2-3)-①
						総(Ⅱ)-13-I
11	9/15 9/29 10/6 10/13	食生活と栄養	1. 自分の栄養状態を評価できる。 2. BMIの定義を説明できる。 3. 身体活動レベルを説明できる。 4. 自分の1日のエネルギー量を説明できる。 5. 生活習慣病の定義を述べ、健康の維持増進を説明できる。 6. 日本人の国民栄養の現状から問題点を説明できる。	C P101~115、D P67~76、 F P29~32の主要部分を解説する。栄養状態と食事調査を評価する。4班に分かれて実習する。	口腔保健学分野教室員全員	C-3-2)-① F-1-6)-(2)-④
						各Ⅰ-6-D, E 必3-A-e 必3-I-a 総(Ⅱ)-5-B
12	9/15 9/29 10/6 10/13	人間の活動と疲労	1. 活動により生じた疲労感について評価できる。 2. 疲労についての対策を説明できる。 3. 自分の基礎代謝量を説明できる。 4. 自分の1日のエネルギー量を説明できる。	D P77~88、F P23~28の主要部分を解説する。疲労の諸検査を評価する。基礎代謝量、エネルギー所要量を算出する。4班に分かれて実習する。	口腔保健学分野教室員全員	C-3-2)-①
						必3-I-c
13	9/22	(PBL)	1. プレゼンテーションすることができる。 2. プレゼンテーションの内容に対して、質問や意見を述べることができる。	グループの発表と討論について支援する。	口腔保健学分野教室員全員、 山本龍生、 阿部 智	B-1-2)-②③
						なし
14	9/22		1. プレゼンテーションすることができる。 2. プレゼンテーションの内容に対して、質問や意見を述べることができる。	//	口腔保健学分野教室員全員、 山本龍生、 阿部 智	B-1-2)-②③
						なし
15	10/20	調査	1. 歯科保健生活習慣に関する質問紙項目の意義を説明できる。 2. 歯科保健生活習慣調査票作成に必要な項目を説明できる。 3. 食事調査結果を適切に評価し、説明できる。	E P35~39、67~78、 F P40~45の主要部分を解説する。質問紙調査、口腔内写真撮影の方法を解説する。	口腔保健学分野教室員全員	C-4-2)-③ F-1-6)-(2)-⑤
						総Ⅱ-(Ⅱ)-10-I

授業計画 (実習)						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
16	10/20	調査	1. 歯周疾患に関する指数を説明できる。 2. 探針、ミラーの正しい使用方法を説明できる。 3. PMA 指数が診査できる。 4. CPI が診査できる。 5. WHO probe の使用方法を正しく説明できる。 6. 診査結果から歯周状態を正しく評価できる。	E P1~6、14~21、59~62、 F P46の主要部分を解説する。 歯周疾患診査の方法を解説する。	口腔保健学分野 教室員全員	C-4-1)-③  総(Ⅱ)-10-H
			1. 唾液を検体とした齲蝕活動試験を説明できる。 2. 口腔清掃状態 (PCR) の診査ができる。	E P7~12、23~30、41~57、 F P47~51の主要部分を解説する。 齲蝕活動性試験、口腔清掃状況の方法を解説する。	口腔保健学分野 教室員全員	C-4-1)-③  各Ⅰ-1-B 必15-AB-a 総(Ⅱ)-10-H
17	10/27		1. 齲蝕の診査と齲蝕経験について説明できる。 2. CO を説明できる。 3. 学校保健法による歯・口の診査を実施し、説明できる。	E P7~12、20~30、 F P49~5の主要部分を解説する。 齲蝕診査の方法を解説する。	口腔保健学分野 教室員全員	C-3-2)-④  総(Ⅱ)-1-G 総(Ⅱ)-3-E
			1. 乳歯および永久歯の齲蝕経験を説明できる。 2. PMA、CPI などの主要な歯周疾患の指標を説明できる。 3. OHI-S などの主要な歯口清掃状態の指標を説明できる。 4. 口腔保健の現状の把握ならびに日本人全体のレベルとの比較を説明できる。 5. 歯科的問題点を説明できる。 6. 上記の原因を検討できる。 7. より上位の健康を達成するための目標が設定できる。 8. 口腔内写真が撮影できる。	E P1~34、107~119、 F P52~57の主要部分を解説する。 集計、現状の把握、問題点と原因の検討、目標の設定を解説する。	口腔保健学分野 教室員全員	C-3-2)-④ C-4-1)-③  必15-AB-a 総(Ⅱ)-10-H
18	10/27	集計・診断・事後措置計画	1. 集団を対象にした1年間にわたる事後措置計画を説明できる。 2. フッ化物応用法、歯磨き指導、食事指導、歯科衛生教育などの実際効果と期待効果を説明できる。 3. 公衆衛生特性に優れた口腔疾患の予防手段を選択できる。	E P1~31、F P58の主要部分を解説する。 総合診断でのグループ討議と事後措置計画の立案を補佐する。	口腔保健学分野 教室員全員	C-3-2)-①~④  必3-H-b 各Ⅰ-1-F
			1. ブラッシング方法を分類し、手技を説明できる。 2. 必要に応じた補助的清掃用具を選択し、使用方法を説明できる。 3. 適切な歯ブラシの選択と使用歯磨剤量を説明できる。	E P79~84、F P60~62、B の主要部分を解説する。 口腔清掃用具の使用法を解説する。 口腔清掃法の指導方法を解説する。	口腔保健学分野 教室員全員	F-1-6)-(2)-①~③  必3-J-a 各Ⅰ-6-A、B、C
19	11/10	事後措置	1. 媒体を用いて理解度を確認しながら、歯口清掃指導を説明できる。 2. 実体験を通して歯口清掃指導を説明できる。 3. 口腔清掃状態 (OHI、OHI-S) の診査ができる。	E P24~30、79~84、F P59、 62、B の主要部分を解説する。 口腔清掃用具の使用法を解説する。 口腔清掃法の指導方法を解説する。	口腔保健学分野 教室員全員	C-3-2)-① C-4-1)-③ F-1-6)-(2)-①~③  総(Ⅱ)-10-H 必3-J-a 必15-AB-a
			1. 口腔内写真から得られる情報を説明できる。 2. 口腔内写真から得られる情報を整理し、個人評価できる。 3. 診査結果をもとに保健指導が説明できる。	E P31~34、F P63~65の主要部分を解説する。 口腔内写真の評価方法を解説する。	口腔保健学分野 教室員全員	C-3-2)-① F-1-6)-(2)-①②  総(Ⅱ)-1-C
20	11/10					
21	11/17					
22	11/17					
23	11/24					

授業計画〈実習〉						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
24	11/24	事後措置	1. フッ化物洗口法を指導が説明できる。 2. フッ化物洗口法の毎日法と週1回法の利点・欠点を述べることができる。 3. フッ化物洗口液の濃度と量からフッ化物含有量を説明できる。 4. フッ化物配合歯磨き剤を剤型、フッ化物の種類、フッ化物濃度から説明できる。 5. 患者に応じたフッ化物配合歯磨剤の有効な使用法を説明できる。	E P85～89、93～98、 F P66～68の主要部分を解説する。フッ化物洗口法、フッ化物配合歯磨剤の使用の指導方法を解説する。	口腔保健学分野教室員全員	C-3-2)-② F-1-6)-(2)-⑤  必3- H -6 各 I -1- F
25	12/1		1. フッ化物歯面塗布法を説明できる。 2. 簡易防湿できる。 3. フッ化物歯面塗布法の利点、欠点を説明できる。 4. フッ化物歯面塗布法の種類や術式を具体的に説明できる。 5. フッ化物歯面塗布法とフッ化物洗口法を比較できる。	E P89～93、F P69の主要部分を解説する。フッ化物歯面塗布の実際を解説する。	口腔保健学分野教室員全員	C-3-2)-② F-1-6)-(1)-①  必3-3- H - b 各 I -1- F
26	12/1		1. 抜去歯牙模型上にて材料に対応した術式で窩溝填塞操作ができる。 2. 窩溝塞の術式を説明できる。	E P99～102、F P70～71の主要部分を解説する。抜去歯を用いて各種窩溝填塞材の填塞方法を解説する。	口腔保健学分野教室員全員	C-3-2)-① F-1-6)-(1)-②  各 I -1- D
27	12/8	評価	1. 地域歯科保健活動の進め方を概説できる。 2. 評価の要点を列挙できる。 3. 疾患の減少率を説明できる。 4. 活動を評価できる。 5. 統計処理の手法が説明できる。 6. 評価内容を健康管理の計画に組み込み、説明できる。	E P1～6、107～117、 F P72～74の主要部分を解説する。統計処理の手法を解説する。活動の評価におけるグループ内の討論を補佐する。	口腔保健学分野教室員全員	C-3-2)-④ C-4-2)-③  各 I -1- E 総 ( I )-4- C 総 ( II )-10- H
28	12/8	成人、高齢者、要介護者の歯科保健	1. 歯周病患者に適したブラッシング方法を示し、手技を説明できる。 2. 高齢者に多くみられる疾患を列挙できる。 3. 高齢者の口腔の機能の問題点を概説できる。 4. 寝たきり老人の口腔保健上の問題点を説明できる。 5. 義歯清掃が説明できる。 6. 義歯洗浄剤の適正使用が説明できる。 7. 舌苔清掃用具の使用方法が説明できる。 8. 要介護者用口腔内清掃用具を分類して説明できる。 9. 要介護者への口腔清掃指導を説明できる。	A P270～292、B P94～107、 E P103～106、F P75～78の主要部分を解説する。ビデオを用いて要介護者への口腔清掃の実際を解説する。	口腔保健学分野教室員全員	C-3-2)-①③ F-4-3)-①② F-1-6)-(1)-③  各 I -6- A , B , C 必3- J - d 総 ( II )-6- C , D , E
29	12/15	試験評価	PBL を除く各実習ユニットの行動目標を実行できる。	実習試験を実施する。	口腔保健学分野教室員全員	
30	12/15		PBL を除く各実習ユニットの行動目標を実行できる。	実習試験を実施する。	口腔保健学分野教室員全員	B-1-2)-②③  なし